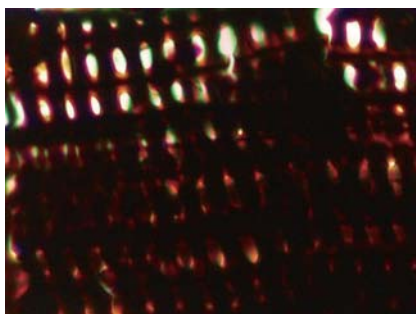
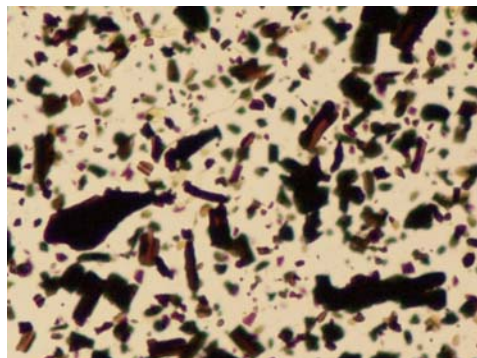


## 微粒炭分析

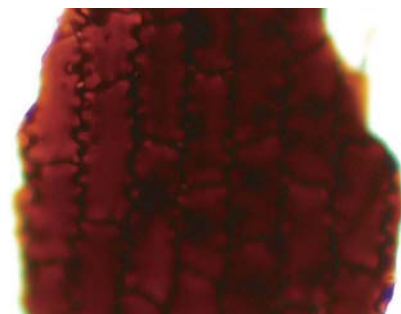
微粒炭は、土壌中に含まれる黒～黒褐色の微細な炭化物をさす。これらは、燃焼により炭化したことが定説化しており、土壌中におけるこれらの量比が人間活動に大きく関わっていると考えられる。花粉分析や植物珪酸体などと併せて微粒炭を調べることによって、山火事などの自然現象、農耕（焼畑など）、野焼、周辺の工業化（燃料材としての木材や化石燃料の使用）といった生業の消長を知ることができる。また、遺構周辺では0.25mmを超える微粒炭が検出されることがあり、これにより遺跡内での燃焼行為等について言及することができる。



木本由来微粒炭(道管?)



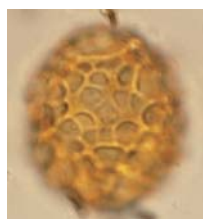
イネ科由来微粒炭



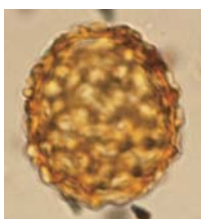
イネ科由来微粒炭?

## 寄生虫卵分析

トイレ遺構の検証方法は、可食植物の種実や花粉の調査、食糞性昆虫や魚骨の調査、重金属類やリン酸などの濃集状況調査、コレステロールやコプロスタノール等の調査、珪藻分析による海産物摂取の可能性についての調査などがある。中でも寄生虫卵分析は、糞便中に多量に含まれている可能性が高く、花粉化石同様に分解に強いことから、トイレ遺構の検証に有効である。また、上記分析と組み合わせることによって、当時の食性についての情報なども得ることができる。



回虫卵



鞭虫卵



肝吸虫卵



日本海裂頭条虫卵



寄生虫卵に伴うことが多い花粉化石



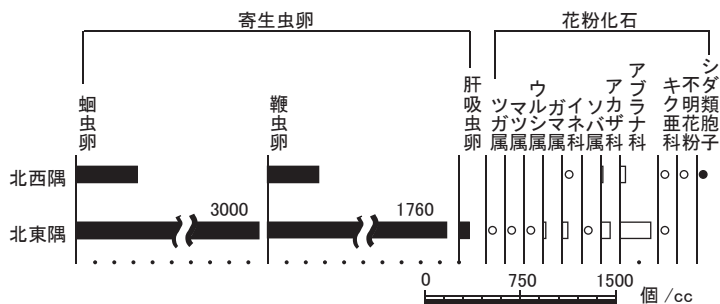
アブラナ科



イネ属



ベニバナ属



紀尾井町遺跡 SA46 遺構の寄生虫卵・花粉化石組成 Palyno4号より  
土壌1ccあたりの個体数で示す。●○は15個体未満を示す。